

令和6年度(2024)新潟経営大学

入学者選抜 総合型選抜
主体性重視 1期 問題冊子

小論文

(経営情報学部 経営情報学科/スポーツマネジメント学科)

注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、及び答案用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせなさい。
3. 受験番号欄に受験番号を数字で記入しなさい。
4. 氏名欄に氏名を記入しなさい。
5. 試験終了後、問題冊子は持ち帰りなさい。

問題 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

人手不足が深刻な日本では、労働力を補う手段としてのロボットの導入が広範な産業で課題となる。産業用途が主だったロボットが、我々の身の回りにも浸透し始めた。ロボットと共存できる社会の構築が求められる。

ひとくちにロボットといっても用途は様々だ。自動車やエレクトロニクスの工場では早くから機械が人の作業を代替したり、補ったりしてきた。現代では米アマゾン・ドット・コムなどネット通販企業や物流会社が倉庫に最先端の搬送ロボットなどを導入して、我々の暮らしを支えている。

人の目に見えない場所で動くロボットは企業にとっても取り入れやすかった。これからは一般の人に接するサービス業にも、生産性の向上に直結するロボットの活躍の場を広げていく必要がある。

すでに導入が進んでいるのが飲食店だ。すかいらーくホールディングスは配膳ロボットを3000台、ゼンショーホールディングスも1300台を取り入れている。

物珍しさもあってか今のところは苦情も少ないというが、まだまだ人間のような気の利いたサービスには対応できない部分が残るのは事実だろう。今後は自動運転によるモビリティサービスや介護など、様々な生活の場面で機械の力が欠かせなくなる。

これらのロボットの頭脳にあたる人工知能(AI)は実践の場を重ねるほど習熟していく。もちろん人命や財産が脅かされないケースに限るが、社会実装の初期段階である現在は少々の不備に目をつむり、機械の進化を支える寛容さが顧客側にも求められるだろう。

ロボットを受け入れ、進化させる社会を築くには何が必要か。経済産業省は「ロボットフレンドリー」な環境を築くためにユーザーやメーカー、システム会社が連携する必要性を訴える。1社では完結しないということだ。個人情報を含むデータの取り扱いをどうすべきか、法整備も課題となる。

ロボット産業は大手企業に限らず、スタートアップの育成などで幅広い経済活性化につながる。米テスラが二足歩行のヒューマノイドへの参入を表明し、中国ではスタートアップが次々と生まれるなど世界的な関心も高い。この分野で日本企業が躍進するためにも、ロボットを受け入れる知恵を絞りルール作りも進めてほしい。

(出典) 日本経済新聞電子版 2023/9/5

社説 ロボットを受け入れる社会を築こう

この記事は日本経済新聞社の許諾を得て掲載しています。

日本経済新聞社に無断で複写・転載することは禁じます。

問1 本文を読み、ロボットは私たち人間とどうかかわってきたのか、過去から現代、そしてこれからについて200字程度にまとめなさい。

問2 あなたは、今後、ロボットフレンドリーな環境を実現するためには、何が必要になると考えますか。あなたの考えを400字程度で述べなさい。